

## 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、「GS日本株式インデックス・プラス」は、このたび、第22期の決算を行いました。本ファンドは、日本株式市場に広く分散投資を行い、TOPIX(東証株価指数)(配当なし)との連動性を維持しながら、ベンチマークを上回る収益を安定的に獲得することをめざして運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。  
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

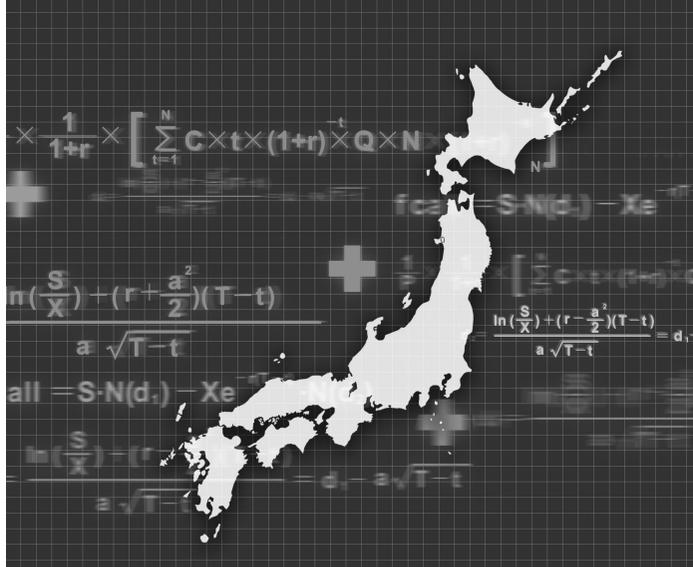
第22期末(2016年9月20日)		第22期	
基準価額	8,661円	騰落率	-4.98%
純資産総額	8,202百万円	分配金合計	5円

(注) 騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付することが定められております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

## &lt;閲覧方法&gt;

右記URLにアクセス⇒「ファンドラインナップ」より本ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択



## 交付運用報告書

GS 日本株式  
インデックス・プラス

追加型投信／国内／株式

第22期(決算日2016年9月20日)

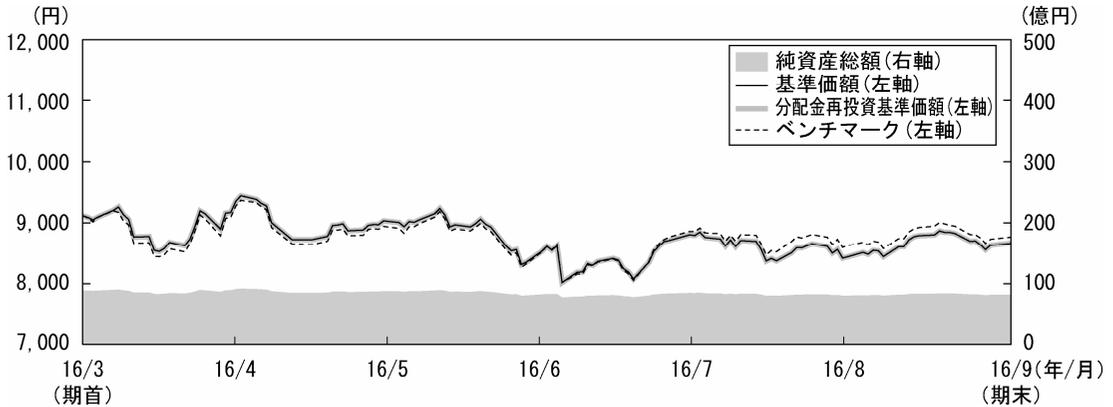
作成対象期間: 2016年3月23日～2016年9月20日

## ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー  
お問合せ先: 03-6437-6000(代表)  
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)

## 運用経過

### ■ 基準価額等の推移について（2016年3月23日～2016年9月20日）



第22期首：9,120円

第22期末：8,661円

（期中にお支払いした分配金：5円）

騰落率：-4.98%（分配金再投資ベース）

（注1）ベンチマークはTOPIX（東証株価指数）（配当なし）です。

（注2）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注3）実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

（注4）分配金再投資基準価額、ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

### ■ 基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の9,120円から459円下落し、期末には8,661円となりました。

#### 上昇要因

企業のファンダメンタルズに影響を及ぼす情報に対する株式市場の反応に着目する「株価の勢い（モメンタム）」のプラス寄与に加え、マイナス金利や円高などの影響により、アンダーウェイトとしていた保険や電気機器銘柄が下落しプラス寄与となったことなども、基準価額の上昇要因となりました。

#### 下落要因

英国のEU（欧州連合）離脱問題や米国の利上げ観測など世界経済の不安定感が強まったことに加え、円高の進行による輸出企業の業績悪化懸念から、当期の日本株式市場が下落したことなどが、基準価額の主な下落要因となりました。

## ■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2016年3月23日～2016年9月20日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	48円 (21)	0.539% (0.242)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(24)	(0.269)	
(受託会社)	(2)	(0.027)	
売買委託手数料 (株式) (先物・オプション)	3 (3) (0)	0.031 (0.030) (0.001)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (監査費用) (その他)	1 (0) (1)	0.016 (0.001) (0.015)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
合計	52	0.586	

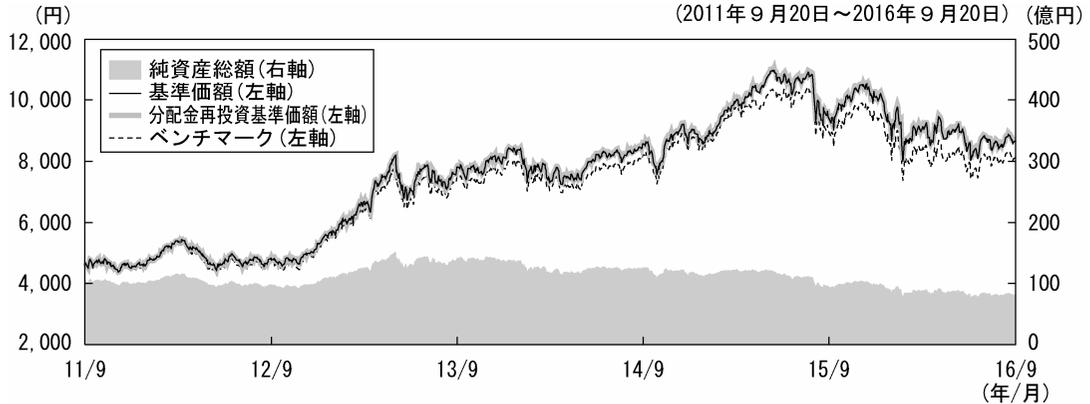
期中の平均基準価額は8,838円です。

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注3) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2011年9月20日の基準価額を起点として指数化しています。

## 最近5年間の年間騰落率

	2011/9/20 決算日	2012/9/20 決算日	2013/9/20 決算日	2014/9/22 決算日	2015/9/24 決算日	2016/9/20 決算日
基準価額（分配落）（円）	4,653	4,759	7,819	8,554	9,239	8,661
期間分配金合計（税引前）（円）	—	10	10	10	10	10
分配金再投資基準価額騰落率	—	2.48%	64.53%	9.54%	8.12%	-6.15%
ベンチマーク騰落率	—	-0.16%	61.71%	9.18%	7.22%	-7.71%
純資産総額（百万円）	10,459	9,714	14,116	12,551	9,307	8,202

## ■ 投資環境について

当期の日本株式市場は、期初は、外国為替市場において円高が進行したことなどにより下落しました。その後、円高進行が一服したことや原油価格の上昇、中国の3月の貿易収支において輸出が前年同月比で市場予想を上回る大幅な回復となったことなどから大きく反発しましたが、4月末の金融政策決定会合において日銀が追加金融緩和を見合わせたことから失望感が広がり、下落しました。6月は、英国のEU離脱決定などを受けて大幅に下落する局面もありましたが、7月に入り、英国・ユーロ圏の経済が予想外に安定していることや6月の米雇用統計が市場予想を上回ったこと、参議院議員選挙において与党が勝利したことなどで安心感が広がり、大きく上昇しました。期の終盤は、日米の金融政策の動向に左右され一進一退の推移となり、結局前期末を下回る水準で期を終えました。

## ■ ポートフォリオについて

### <本ファンド>

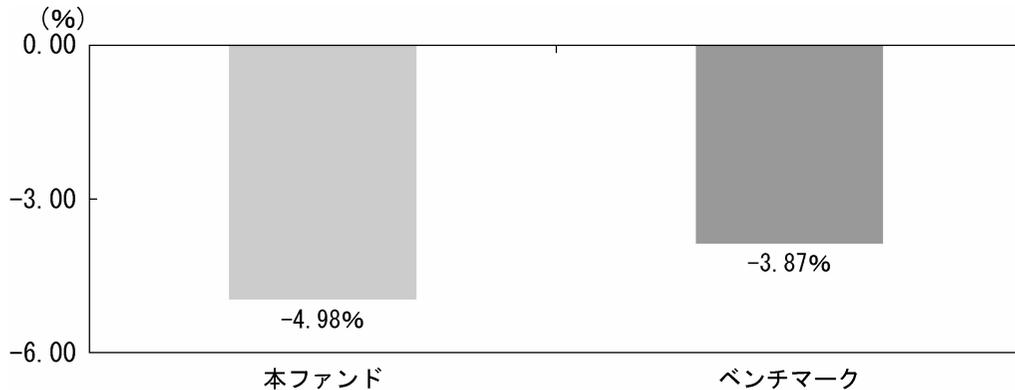
GS日本株計量運用ポートフォリオ マザーファンドを通じて、日本株式市場に広く分散投資を行い、TOPIX（配当なし）との連動性を維持しながら、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。

### <本マザーファンド>

本マザーファンドでは、ベンチマークであるTOPIX（配当込み）との連動性を維持しながら、ベンチマークを上回る収益を安定的に獲得することをめざしました。また、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント独自開発の計量モデルを用い、多様な銘柄評価基準に基づいて銘柄選択を行うことにより、安定した付加価値の獲得を追求しました。

## ■ ベンチマークとの差異について

&lt; 当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率） &gt;



(注) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は-4.98%となり、ベンチマーク（-3.87%）を下回りました。

当運用では、当社計量モデルを用いた6つの銘柄評価基準により個別銘柄の選択を行っていますが、当期は「株値の勢い（モメンタム）」がプラス寄与となった一方、「市場の評価（センチメント）」が大きくマイナス寄与となり、全体でベンチマークを下回りました。

## ■ 分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、当期は5円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

### <分配原資の内訳>

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	第22期
	2016年3月23日～2016年9月20日
当期分配金	5
(対基準価額比率)	0.058
当期の収益	5
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,456

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針について

### <本ファンド>

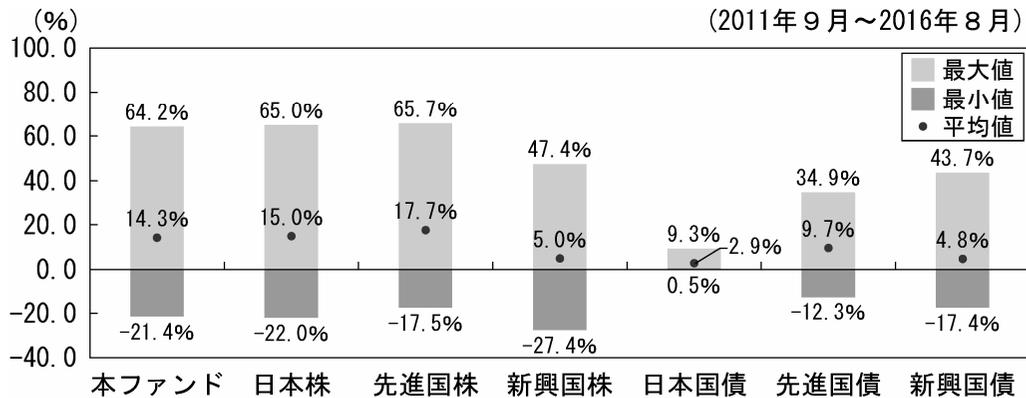
今後も引き続き本マザーファンド受益証券を高位に組入れ、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

### <本マザーファンド>

従来通りの運用を継続します。また、個別銘柄のリターン予測モデル、ポートフォリオのリスク管理モデルなどの計量モデルに関する研究・開発は継続的に実施しており、将来のモデル改良への布石としています。

## 本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	原則として無期限
運用方針	国内の株式を主要投資対象とし、信託財産の長期的な成長を図ることを目標とします。独自開発の計量モデルを用いて、多様な評価基準に基づいて銘柄選択を行うことにより、グロース相場、バリュー相場といったさまざまな市場局面においても安定した付加価値を獲得することと、TOPIX(配当なし)を運用上のベンチマークとして、ベンチマークの動きからの乖離を抑制しつつ、ベンチマークを上回る収益を安定的に獲得することを目的とします。
主要投資対象	
本ファンド	GS日本株計量運用ポートフォリオ マザーファンドの受益証券
GS日本株計量運用 ポートフォリオ マザーファンド	日本の上場株式
運用方法・組入制限	①主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます。 ②マザーファンドにおける株式の組入比率は原則としてフル・インベストメントとします。
分配方針	原則として毎計算期末（毎年3月20日および9月20日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

**(参考情報)****■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較**

○上記は、2011年9月から2016年8月の5年間ににおける1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

- ・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースまたは円換算ベースの指数を採用しております。
- ・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。
- ・本ファンドの騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
- ・騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

## 本ファンドのデータ

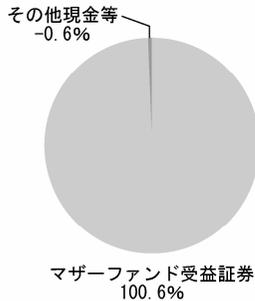
■ 本ファンドの組入資産の内容 (2016年9月20日現在)

○ 組入れファンド

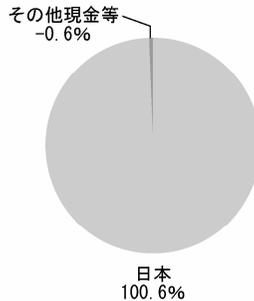
(組入銘柄数 : 1 銘柄)

ファンド名	比率
GS日本株計量運用ポートフォリオ マザーファンド	100.6%

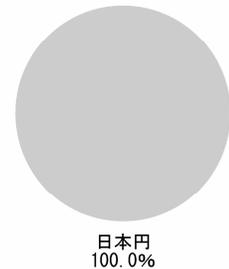
○ 資産別配分



○ 国別配分



○ 通貨別配分



(注) 上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■ 純資産等

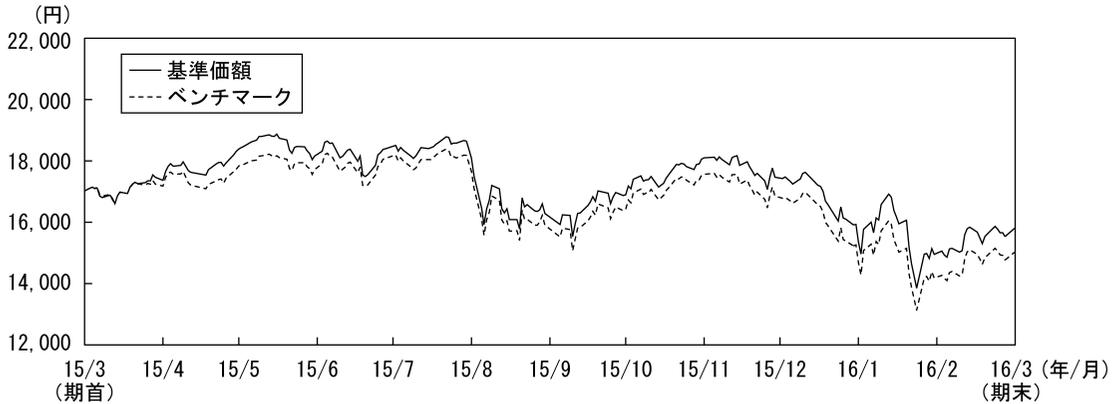
項目	第22期末
	2016年9月20日
純資産総額	8,202,098,049円
受益権総口数	9,470,127,974口
1万口当たり基準価額	8,661円

(注) 期首元本額は9,750,270,580円、当作成期間中において、追加設定元本額は161,094,522円、同解約元本額は441,237,128円です。

## ■ 組入上位ファンドの概要

GS 日本株計量運用ポートフォリオ マザーファンド (2016年3月22日現在)

○ 基準価額等の推移について (2015年3月21日～2016年3月22日)



(注1) 基準価額等の推移については組入れファンドの直近の計算期間のもので。

(注2) ベンチマークはTOPIX (配当込み) です。

(注3) ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

## ○ 1万口当たりの費用明細

項目	
売買委託手数料	10円
(株式)	(10)
(先物・オプション)	(1)
合計	10

(注1) 1万口当たりの費用明細は組入れファンドの直近の計算期間のもので。

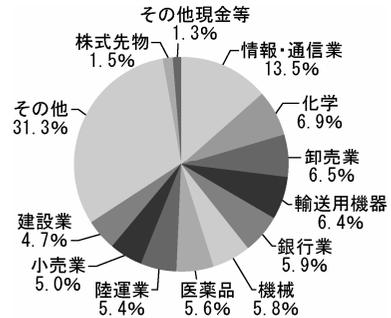
(注2) 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ (1万口当たりの費用明細の項目の概要) をご参照ください。

○組入上位10銘柄

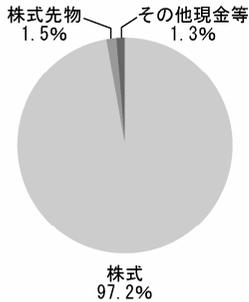
(組入銘柄数：246銘柄)

	銘柄	業種	市場	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	東証1部	3.2%
2	日本電信電話	情報・通信業	東証1部	3.0%
3	トヨタ自動車	輸送用機器	東証1部	2.7%
4	東海旅客鉄道	陸運業	東証1部	1.9%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	東証1部	1.9%
6	KDDI	情報・通信業	東証1部	1.9%
7	アステラス製薬	医薬品	東証1部	1.7%
8	大和ハウス工業	建設業	東証1部	1.7%
9	オリックス	其他金融業	東証1部	1.7%
10	日本航空	空運業	東証1部	1.5%

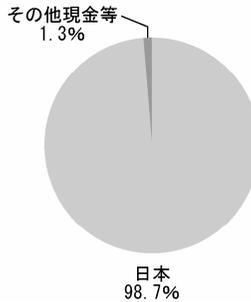
○業種別配分



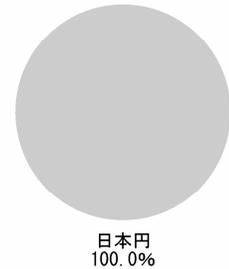
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 組入上位10銘柄、業種別配分、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは組入れファンドの直近の決算日時点のもの  
です。

(注2) 上記の比率は全て組入れファンドの純資産総額に対する割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。